めぐみイエス・キリスト教会

2025年11月9日（日）第二主日礼拝
午前10時より
週報「通算第782号」

2025年標題聖句

イザヤ書40章30節～31節

《若者も疲れて力尽き、若い男たちも、つまずき倒れる。しかし、主を待ち望む者は新しく力を得、鷲のように、翼を広げて上ることができる。走っても力衰えず、歩いても疲れない。》

第一礼拝（教会にて）　毎週日曜日　午前10時～11時
聖書の学びと祈り会　毎週水曜日　午後6時～（各家庭にて）

牧師　鈴　木　竜　実
　　ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人（ものみの塔）、統一教会（原理福音）とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】
【賛　美　Ⅰ】新聖歌378「罪の世人らに」　p. 608
【交　読　文】№60　ヨハネの黙示録第21章　p. 928
【賛　美　Ⅱ】新聖歌451「カルバリ山より」　p. 726
【使徒信条】
【主の祈り】
【前回説教】
【賛　美　Ⅲ】オリジナル曲「アバ父よ」
【聖書朗読】ルカの福音書11章29節～32節（p. 138下段）
【礼拝説教】《ヨナのしるし》
【聖　餐　式】
【賛　美　Ⅳ】新聖歌165「栄光イエスにあれ」　p. 235
【平和祈り】
【頌　　栄】新聖歌63「父・御子・御霊の」　p. 85
【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所ルカの福音書11章29節～32節

11:29　さて、群衆の数が増えてくると、イエスは話し始められた。「この時代は悪い時代です。しるしを求めますが、しるしは与えられません。ただし、ヨナのしるしは別です。
11:30　ヨナがニネベの人々のために、しるしとなったように、人の子がこの時代のために、しるしとなるからです。
11:31　南の女王が、さばきのときに、この時代の人々と共に立って、この時代の人々を罪ありとします。彼女はソロモンの知恵を聞くために地の果てから来たからです。しかし見なさい。ここにソロモンにまさるものがあります。

11:32 ニネベの人々が、さばきのときに、この時代の人々とともに立って、この時代の人々を罪ありとします。ニネベの人々はヨナの説教で悔い改めたからです。しかし見なさい。ここにヨナにまさるものがあります。」

●ポイント1. この時代の求めるしるしとは？

※イザヤ書35章4節～6節「メシアのしるし」　（旧約p.1222）

35:4 心騒ぐ者たちに言え。「強くあれ。恐れるな。見よ。あなたがたの神が、復讐が、神の報いがやって来る。神は来て、あなたがたを救われる。」

35:5 そのとき、目の見えない者の目は開かれ、耳の聞こえない者の耳は開けられる。

35:6 そのとき、足の萎えた者は鹿のように飛び跳ね、口のきけない者の舌は喜び歌う。

※第Ⅱ列王記1章10節「サマリアの王アハズヤ」　（旧約p.648）

1:10 エリヤはその五十人隊の長に答えて言った。「私が神の人であるなら、天から火が下って来て、あなたとあなたの部下五十人を焼き尽くすだろう。」すると、天から火が下って来て、彼とその部下五十人を焼き尽くした。

●ポイント2. ヨナのしるしとは？

※ヨナ書1章17節・2章10節「三日三晩」　（旧約p.1578）

1:17 【主】は大きな魚を備えて、ヨナをのみ込ませた。ヨナは三日三晩、魚の腹の中にいた。

2:10 【主】は魚に命じて、ヨナを陸地に吐き出させた。

●ポイント3.南(現サウジアラビア)の女王とは？

※第Ⅰ列王記10章1節～9節「シェバの女王」(旧約p.614下段)

◎先週のメッセージ【神の言葉を信じ守る人の幸い】

《ある女の人が大声で、主イエスに向かって言ったのです。
「あなたを宿した胎、あなたが吸った乳房は幸いです。」これは、ユダヤの言い回しで、主の母マリアを褒め称えたものです。そして、この女の人は、主の母マリアをよく知っていたと思われます。現代訳は、『「あなたを育てたお母さんは、何と幸いなことでしょう。」「確かにその通りです。ですから、マリアが神の言葉を聞いてそれを信じたように、だれでも、神の言葉を聞いて、それを信じ続ける人は幸いです。」』と、訳されています。

特に、女の人が言われた言葉を否定するのではなく、「確かにそのとおりです」と、主は愛を持って受け止められ、そして母マリアの信仰を絶賛し、さらなる勧めをしています。「信仰」が大切なポイントです。

受胎告知の場面において御使いガブリエルはマリアに言います。
「神にとって不可能なことは何もありません。」
「ご覧下さい。私は主のはしためです。どうぞ、あなたのお言葉どおり、この身になりますように。」

マリアは、ダビデの血筋を継ぐ者です。よって、救い主が乙女から生まれることを知っています。ダビデの子孫の乙女たちは、「自分がその母になるかも知れない」という淡い期待を抱いていたと伝えられています。まさかマリアは、自分に白羽の矢が当たったとは驚いたに違いありません。しかも、マリアには、婚約者のヨセフがいるのです。

これこそがまさに命がけの信仰であり、カトリック教会がマリアを崇敬する理由なのです。ヘブル書には、次のように書かれています。
『信仰は、望んでいることを保証し、目に見えないものを確信させるものです。神に近づく者は、神がおられることと、ご自分を求める者には報いて下さる方であることを、信じなければならないのです。』と。

大切なことは、「神様は良いお方」であることを信じることです。》

◎お知らせ

※次回11月の第三主日礼拝は、11月16日午前10時からです。